

(6) 2016年(平成28年) 7月21日(木曜日)

皆さんには、スペインのバルセロナに行かれたことがありますか？私はバックパック旅行で格安で、冬のスペインに行つたことがあります。そこで、サグラダファミリアという教会を見ました。それは、建築家のガウディがデザイン、建築した教会です。ガウディの死後も、未だに建設中（日本の建築会社が施行しています）です。

さて、サグラダファミリアを見ていた私は建物のあちこちにある数字が気になりました。それは、壁にある数字、建築物の中にある数字、どれを合わせても33という数字になるようになっています。この33という数字はイエス・キリストが生きた生涯の年数で

このサグラダファミリアは、非常に巨大な建物なのに、異常にくらいに細かいデザイン、彫刻、窓辺のガラス、イエス・キリストの33年

す。

もう」ぐらいに思っていたのが、ひっくり返されました。これは、ガウディは聖書を読んでイエス・キリストの33年の生涯（貧しい人と共に生き、病気の人を癒し、神様の人生の辞書には、自分の使命である建築に没頭するあまり、暇という単語がなかった

が、ひっくり返されました。

作りきれなかつたのだ、と思いました。きっと、ガウディの人生の辞書には、自分の使命である建築に没頭するあまり、暇という単語がなかつた

だろうと思いました。

命を賭けて建築したサグラダファミリアは完成し切れなかつたけど、その情熱は、後世の人までを燃やして建築を続けさせることになりました。

皆さんには、仕事への情熱や人生への情熱、命をかけて燃えていることがあります。それ

義と愛を語り、十字架にかかり人の罪を許し、3日目に復活された）を黙想して、イエス・キリストの33年の生涯を描きたいと思ったら、そのIDEAは作っても作っても、ほんと

## 不惑の33

### 南加キリスト教教会連合

北野 実

限りがなく、彼の人生全部を使つても、燃やし尽くしても作りきれなかつたのだ、と思いました。きっと、ガウディの人生の辞書には、自分の使命である建築に没頭するあまり、暇という単語がなかつた

それは、イエス・キリストは出会うときにわかります。イエスは33歳の青年で十字架でなくなりました。しかし、イエスは今も、世界中の人に、全時代の人々に影響を与えています。人生は長い、短いが問題でなくて、どのように生きるかが大事です。（イエスは33年しか地上の生涯を生きませんでした）

燃える人生を歩んでみませ

んか、命を燃やす人生を生きたい、と思いませんか。

度、教会を訪ね、聖書を読んでもませんか、その答えはイエス・キリストにあります。

あなたの人生に生きる目的、価値を与えてくれます。

（トーレンス・ジユビリー）

教会牧師）